

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第33号

発行：平成28年10月 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)

イベント報告

● 春のふれあいの森まつり (平成28年 4月 3日)

すっかり定番のイベントとなった「春のふれあいの森まつり」。今年は56名の方に参加していただきました。3班に分かれて、シイタケの菌打ち、クラフト作り、森のガイドや生きもの観察などを行いました。いつもは冷たい雨に合うことが多いのですが、お天気にも恵まれ、普段できない体験ができた参加者の笑顔が絶えない一日となりました。



● 夜の生きもの観察 (平成28年 8月14日)

このイベントは、夜になると活動する生き物を観察し、その暮らしについて興味を持ってもらおうと企画した、今年で3回目の実施です。午後6時半に森の館を出発し、できるだけライトを消して静かに森を探索しました。日の入りが近づくにつれて聞こえる鳴き声がセミからコオロギ類に変化していくことや、樹液ポイントでは、コクワガタやカナブン、草むらでは昼間は見かけないカマドウマなどが見付き、参加した20名の親子は新たな発見や観察をすることができました。



10周年記念式典・冊子の発行

今年の4月で堺自然ふれあいの森は開園10年目を迎えました。これを記念して、「春のふれあいの森まつり」の開始時に、10周年の記念式典を開催しました。



当日は、堺市公園緑地整備課長の榎木氏より挨拶があり、その後、指定管理者と共にくす玉割りを行いました。

また、10年の節目として、開園前から現在までの取組みをまとめた記念冊子「10年のあゆみ」を6月に発行しました。開園までのプロセスや、森の整備のあゆみ、関係者による10年を振り返った座談会、イベントの実施状況、園内で確認された動植物の種数など、ふれあいの森のこれまでを振り返る貴重な資料が出来上がりました。

森の館内で閲覧出来ますので是非ご覧ください。

森の館内で閲覧出来ますので是非ご覧ください。



半坪ハウス設置報告

大阪工業技術専門学校(以下、OCT)の大工技能学科1年生は、基礎的な木材加工技術を学ぶために本職の大工さんと教員の指導を受けながら、半坪ハウスの設



計・施工を行います。

半坪ハウスとは畳一枚分(半坪)の広さに柱や屋根になる骨組みを、釘などを使わず木材だけで作製したものです。学校で作製した後はその半坪ハウスは不要になることから、OCTもそれらの引き取り先を探していました。ふれあいの森では農活動を行っているいっちゃんクラブが、不足している農具置場を補うために、この半坪ハウス2基を譲り受けることになりました。平成28年6月24日に2年生になった学生6名と教員2名が資材をトラックに積んで到着。基礎のレベルを整えた後、木槌の音を高らかに響かせおよそ3時間かけて組み立てが完了しました。

その後いっちゃんクラブにより、中板の取り付けや屋根葺き、施錠できる扉の設置など使い勝手が良くなるように加工され現在の姿になっています。OCTでは2年生になると卒業製作にとりかかるので、ふれあいの森の景観にマッチした木の温もりの感じられる造作物を作品の一つに加えていただけるように、OCTと今後も連携を図っていきたいと思います。

写真展

平成28年6月1日(水)～6月11日(土)の間、堺市立南図書館2階エントランスで写真展を行いました。ふれあいの森の四季の様子やイベント写真をたくさんの人に見てもらいました。観覧していた方からは「南区に自然が残る公園があるとは知らなかった。」などの声が聞かれました。地域の方々にふれあいの森を知ってもらいたい機会になりました。



特に注目を集めた写真は、森の四季に関する写真でした。これをきっかけに、ふれあいの森に来て、実際に森の四季を感じてもらいたいです。



イベント

平成28年6月11日(土)に「南区おもしろ大発見！生きものさがしてしらべ隊」と題して、大蓮公園での生きもの探しと、堺市立南図書館での図書を利用した生きもの調べを行いました。子ども21名、大人26名の計47名の方にご参加いただきました。



始めは、虫に触ることをためらっていた子どもも、つかみ方や触り方をアドバイスすると、どんどん虫を捕まえていました。

捕まえた虫は、図書館で調べました。図鑑と実物を見比べながら一生懸命調べる姿が見られました。



ふれあいの森の活動風景③ 「環境学習活動」

<9月「森の学習～生きものつながりを探そう～」>

月に一度の活動日には、午前は野外観察や素材集め、午後はイベント「森の学習」を実施しています。9月のテーマは「生きものつながりを探そう」。「生きものつながり」とは生きものたちの「食う・食われる」のつながりのことですが、その瞬間を見つけるのはなかなか難しいもの。イベントに向けて、クモの巣や樹液の出ている木など、観察できそうな場所をチェックしました。そして午後からのイベント本番では、参加者全員で目を凝らし、巣にかかったバツタに糸を巻くクモや、樹液の出ている木の下ではバラバラになったクワガタのアゴを見つけました。実際に「つながり」を発見すると、大人も子どもも目を輝か



生きもの観察を通して、周りの環境や生きものを知るイベントを提供するのが環境学習活動。その活動の様子を取材してきました！



せ、この後クモはバツタをどうするのか、なぜクワガタのアゴが落ちているのかなど、スタッフの解説を聞きながら、驚きを共有しました。森の学習では「秋の草や実で遊ぼう」や「春の雑木林で遊ぼう」など、昔ながらの自然遊びを楽しむ回もあり、様々な面から里山の自然と触れ合い、生きもの同士や人との繋がりを学ぶプログラムを実施しており、メンバー自身の体験や発見を人に伝えるという面白さに、皆生き活きと活動しています。



▲落ちていたクワガタのアゴを発見！



活動プロフィール
活動日：毎月第3土曜日
人数：10名

活動の世話役さんにインタビュー！



いっちゃんクラブ 左木山さん

Q. 活動の目的(担う役割)は？

A. 堺自然ふれあいの森の環境を活かした市民向け学習プログラムの作成と実施。

Q. 一番やりがいのある作業(仕事)は？

A. 小学生や保護者が自然に関する興味関心を高めてくれた時。(それが顔に現れた時)

Q. 活動はどんな雰囲気？

A. 自己の知識を高める喜び、それを伝える楽しさで、皆さんやりがいを感じて楽しく活動しています。

Q. みなさんに一言メッセージをどうぞ！

A. 自然はとても奥深いもの。互いに教えあい、学びあいながら、楽しく活動しませんか？

平成27年度森の整備活動 実施報告

平成27年度は、間伐作業とネザサの刈り取りを中心に、ショウジョウバカマの谷みち付替え工事や、里みちに沿った作業用通路の延長整備等を行いました。また、平成26年度より行われていた西ゾーン(旧里山保護ゾーン)の

植生調査が7月に終了し、新たに尾根みちの西側に位置する「西ゾーン作業区」での整備に着手することとなりました。ここでは、平成27年度に整備した中から、6か所を抽出して報告いたします。



凡例

- 散策路
- 広場
- 常緑樹林
- 落葉樹林
- ネザサ・スキ
- 落葉樹主体雑木林
- 西ゾーン作業区
- 池・河川
- 用地境界

※園内の整備は、毎年改訂している「森の整備計画」に基づき、市民ボランティアと指定管理者が連携して実施しています。

<p>1 スゲ沼整備区</p> <p>スゲの生育を促進させるため、ガマやヨシ、アカメヤナギのひこばえの処理や雑草の除草を継続して行いました。</p>	<p>3 アカマツ再生区</p> <p>アカマツ林を維持するため、下草刈りや、メリケンカルカヤの除去、弱ったアカマツの苗木の養生を行いました。</p>	<p>5 雑木林</p> <p>サクラ・コナラ主体の落葉樹林で、見はらし広場の景観を維持するため、広場下の低木や高木を択伐しました。</p>
<p>2 雑木林</p> <p>落葉樹主体の雑木林を維持するため、間伐や下草刈りなどの林床整備を継続して行いました。</p>	<p>4 尾根西②作業区</p> <p>平成27年度は西ゾーン作業区の「尾根西②作業区」のみ、尾根みちから10m程度内の林床整備を行いました。</p>	<p>6 ネザサ刈取り試験区</p> <p>刈取り後の生育状況を把握し、ネザサを抑制法を検討する区域です。平成27年は南エリアの下草刈りを行いました。</p>

平成28年度森の整備活動 中間報告

今年度は、昨年までの整備を継続させるとともに、57ある整備エリアの内、重点整備エリアとして、シリブカガシ林整備区、アカマツ再生区、雑木林6の3か所を抽出し、優先的に整備を行うこととしています。

また、里山風景区やクヌギ育成区、ホオノキ整備区、お茶試験区についても整備を継続させ、里地里山の復元と維持管理を継続させます。昨年からの整備が始まった西ゾーンについては、調査研究活動による植生調査と観察路整備を踏まえ、長期整備計画を作成中です。

ホオノキ整備区

樹高15mを超えるホオノキは園内ではここだけです。下草刈りや除伐、実生の育成等を行い、ホオノキの景観を維持しています。

クヌギ育成区

旧お弁当広場を改称しました。下草刈りや間伐を行ったのち、今年度は園内の苗圃で育てたクヌギの幼樹を移植しました。

お茶試験区

下草刈りと実生の移植等を行い、お茶畑として整備しています。茶葉は毎年5月に実施している「茶摘み茶揉み体験イベント」等で活用しています。

堺自然ふれあいの森は、豊かな自然環境が残された堺市の南部丘陵の一角に位置しています。当初、公園墓地の拡張用地でありましたが、2000年代入ると里山保全のための用地へと舵が切られました。それ以来、現在まで長らくコーディネーターやアドバイザーとして関わって来ました。5人の公募市民の方々とともに森の保全と活用のあり方をめぐって喧々諤々の議論からこの森での活動が2001年にスタートしました。翌年の2002年からは市民委員が30名となり、2003年からは議論ばかりでなく実際の森の整備も始めました。



森では背丈を越えるネザサ、長らく耕作されていなかった田畑ではフジの根との戦いからスターとしましたが、当初から森の整備に留まるのではなく、市民が市民に自然の大切さの学びや自然とのふれあいの楽しさを提供するといった「公の志」を持って活動が進められました。整備は決して急ぐのではなく、調査からスタートし、将来の植生や活用のあり方を議論しながら各試験区の目標を定め、時間を掛けてゆっくりと整備を進めて来ました。2005年には市民の方々は「いっちゃんクラブ」として自立され、2006年にはこの森は「堺自然ふれあいの森」として開園しました。開園後の2009年にはいっちゃんクラブはNPO法人となり、2014年には生態計画研究所とともにこの森の指定管理者の一翼を担うものの、一貫してボランティアとしてこの森での活動を継続されて来ました。頭の下がる思いとともに多くの同志ともめぐり合えました。

東側の斜面では、里山の風景を代表する明るいコナラ林やこの地を特徴付けるカスミザクラの開花が楽しめるとともにアカマツ林の再生に繋がる実生苗も育ちつつあります。谷部では里山とセットとなる田んぼや畑が再生され、子どもや家族連れのイベント活動の場とな

っています。スゲ沼の維持やススキの再生にも取り組みカヤネズミ等の多様な生物の生息する場ともなっています。今年からは残された西側の斜面の整備も始まり今後が益々楽しみです。

この森が南部丘陵に広がる里地里山の保全モデルとなるとともに、この森での活動を通じていっちゃんクラブに代表されるような多様な「里山の匠」が育っていき、南部丘陵全域で豊かな自然環境が再生、持続されることを願っています。



●●●●●●●● お問い合わせ ●●●●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺自然ふれあいの森 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)
※ふれあいの森パートナーズは、株式会社生態計画研究所とNPO法人いっちゃんクラブの連合体です。

交通案内

お車の場合は「堺公園墓地」を目指してお越し下さい。



堺自然ふれあいの森